

公益財団法人岡本太郎記念現代芸術振興財団
2017 年度事業計画書

「岡本太郎の先駆的芸術創造の成果を広く社会に伝承する。」ことが当財団に課せられたミッションである。これを達成するため、今年度も以下の事業を着実に実施する。

1. 現代芸術に取り組む作家、研究者等に対する助成
2. 現代芸術に関する優れた活動に対する顕彰

(1) 第 21 回岡本太郎現代芸術賞

時代に先駆けて、絶えず新たな挑戦を続け時代をリードしてきた岡本太郎。『岡本太郎現代芸術賞』（通称 TARO 賞）は、岡本太郎の精神を継承し、自由な視点と発想で現代芸術に鋭いメッセージを突きつける作家を顕彰するもので、当財団の主要な事業として取組み、着実に成果を収めてきた。第 21 回となる今年度も、本事業を継続して実施し「時代を創造するものは誰か！」を問いかけ、創造活動に邁進する人たちの活力ある挑戦の場を提供する。

[主催] 公益財団法人岡本太郎記念現代芸術振興財団

川崎市岡本太郎美術館

[スケジュール] (予定)

- ・応募期間 2017 年 7 月～9 月
- ・第一次審査 2017 年 11 月
- ・第二次審査 2018 年 1 月
- ・入賞者発表・授賞式 2018 年 2 月

[賞及び賞金]

- ・岡本太郎賞 200 万円 1 名
- ・岡本敏子賞 100 万円 1 名
- ・特別賞 総額 50 万円 若干名

[審査員]

審査員の構成は次の通りとし委嘱する。(予定、敬称略)

榎木野衣 美術批評家/多摩美術大学教授

山下裕二 美術史家/明治学院大学教授

和多利浩一 ワタリウム美術館キュレーター
北條秀衛 川崎市岡本太郎美術館館長
平野暁臣 空間メディアプロデューサー/岡本太郎記念館館長

(2) 第 21 回岡本太郎現代芸術賞展

今年度も引き続き、第 21 回岡本太郎現代芸術賞の入選・入賞作品展を川崎市岡本太郎美術館で開催する。

(3) 「太郎賞」「敏子賞」受賞者の岡本太郎記念館での特別展示

「太郎賞」「敏子賞」受賞者には岡本太郎記念館での作品展示の機会を提供し、現代芸術の普及に努める。開催中には受賞作家自身によるギャラリートークやワークショップを実施する。

3. 岡本太郎記念館の運営

(1) 建物・収蔵品等の維持管理

- ① **建物** 旧館の老朽化が進む中、日々の点検を不断なく実施し必要に応じて修繕など適切な措置をとり、来館者に対する安心・安全なサービスの提供に努める。特に、火災に対する注意の喚起、雨漏り、漏水対策を確実に行う。また、庭の植栽も定期的に剪定を行う。
- ② **展示物・収蔵品** 岡本太郎の作品は、後世に遺し伝えるべく社会的責任を負っており、修復、保全、整理して作品の維持管理を適切に行う。また、屋外展示物の洗浄、メンテナンスを定期的実施する。

(2) 開館時間・休館日・入館料

開館時間 10:00～18:00
休館日 火曜日(祝日は開館、翌日も開館)
年末年始(12/28～1/4)及び展示替え、保守点検日
入館料 一般 620 円(520 円)/小学生 310 円(210 円)

※ ()内は 15 名以上の団体割引料金

TARO PASSPORT 3,000 円(購入時から 1 年間)

(パスポート購入者は入館無料、ショップ利用 5%割引、イベント情報の発信、優先受付などの特典を付与)

(3) 企画展の実施

本年度は以下の企画展を実施する予定である。

① 「TARO 賞 20 年/20 人の鬼子たち」(会期 3 月 12 日~6 月 18 日)

TARO 賞が始まって 20 年。その入選者・入賞者は 410 人(組)となる。この中から現在第一線で活躍中の 20 人の作家を選出し、記念館に一堂に会して展覧会を行う初の試み。財団設立 20 周年の記念事業として位置づけ、現代芸術のアワードとして更なる認知度の拡散を図る。

② 「岡本太郎の東北」(仮)(会期 6 月下旬~9 月下旬予定)

「日本再発見」「神秘日本」に収められた太郎の眼が捉えた東北。そこに横たわる生命力や文化の根源にふれ、鮮烈で気迫に満ちた太郎のシャッターが捉えた東北を紹介する。

③ 「よみがえる太陽の塔」(仮)(会期 10 月上旬~2 月上旬予定)

平成 30 年春に《太陽の塔》が一般公開される。これまで閉ざされていた内部公開を前に、詳細な全体模型、地下展示全景模型、ゾーンジオラマそして映像を駆使して一足先に《太陽の塔》がよみがえる。

なお、会期中には特別講座や第 19 回岡本太郎現代芸術賞で太郎賞を受賞した三宅感氏、敏子賞を受賞した折原智江氏による特別展を実施する。

(4) ギャラリートーク

来館者サービスの一環として、当館職員による記念館の展示作品の解説やその魅力を語るギャラリートークを実施する。(毎月 1 回)また、近隣の学校や修学旅行でのグループ行動の予約に対しては、要望があれば職員によるガイドンスを行う。

(5) 広報活動

記念館の新規来館者層の開拓やリピーターの確保には、記念館からの不断の情報発信が不可欠である。とりわけ Twitter や Blog、Facebook などソーシャルメディアの普及による口コミ効果は極めて効果的である。今年度も引続き HP や Twitter、PLAY TARO による情報発信をはじめ、企画展フライヤーの配布、メディアへの情報提供、TV、ラジオ番組への出演や資料提供などを積極的に実施していく。

4. 現代芸術に関する調査研究・資料収集

企画展の実施、普及活動、資料収集・提供などに資するため岡本太郎に関する調査研究活動を今年度も継続して行う。

また、各方面からの岡本太郎のオリジナル作品の寄贈受け入れや、埋もれていた貴重な作品を購入するなど可能な範囲で収集・保存に務めていく。

これら調査や収集活動の成果は適宜公開していく。

5. 美術館等関係機関との連携・協力活動

『明日の神話』を管理する NPO 法人明日の神話保全継承機構との連携、支援活動を継続して実施する。また、近隣の大学や博物館(港区ミュージアムネットワーク・加盟館 32 館)との連携によるイベントへの協力、人的交流、情報提供などに積極的に参加する。さらに、全国の美術館、博物館などが実施する岡本太郎関連の特別展や企画展への所蔵作品の貸出や資料提供にも協力していく。

6. ミュージアムショップ

ショップ事業は数少ない当財団の収益事業の支柱である。その充実は記念館の活性化につながるため、魅力的なグッズの開発や提案に取り組む。

7. その他の事業

(1) 太陽の塔再生事業

① 長編ドキュメンタリー映画「太陽の塔(仮)」

本映画は、1970年の歴史的な巨大イベント・大阪万博で岡本太郎が残した《太陽の塔》の持つ今日的意味を約半世紀の時を経て改めて世に問いかけるものである。前年9月に製作監督の公募を行い、関根光才氏が監督に決定した。2018年の公開を予定している。

② 大阪万博テーマ館展示模型制作

以下の展示模型の制作を行う。

1. 《太陽の塔》制作風景 原寸再現模型
2. 大阪万博テーマ館地下展示 全景模型

3. 同上 ゾーンジオラマ模型 3 点 <いのち><ひと><いのり>

これら再生事業の成果物は、記念館での常設展示や企画展で活用するとともに、全国の博物館などの文化施設へ貸出し、多様な視点で岡本芸術を社会に伝えるツールとして積極的に活用していく。

なお、上記の事業費は、主要事業推進基金(太陽の塔再生事業費用)から支弁する。

(3) 映像(動画・写真等)資料のアーカイブ化

記念館が所蔵する岡本太郎・敏子の貴重な映像資料を保存し利用に供するため、古いビデオテープ及び 16 mm フィルム映像の DVD 化をさらに進める。くわえて過去の紙焼写真をスキャンしデータ化する作業も実施する。

以上